

小川

氏

名

馬

名

下

小川為
月也
問答
卷三

凡
口
目



小川為 治著述 開化問答 卷下

開次郎



一服りぶくやらのりたかふあれのまま法談義ほつだんぎを

今乃いま法論ほつろんては當時政府たうじせいふ不

法取立しりりたて諸運上しよんじやう皆無理みなむりならず

是迄これまで通りとおり百姓ひやくしやうのし諸年しよねん莫みなもありなし

仁政じんせいてはいいひひたたまはるが失禮しつれいならず

第一だいいちのこころ心得こころえ違ちがひならずてはあらず

開化問答 卷下

出... 實... 言...

小落入こらくりりせり善よくし試あふれらの害がを防がんと
 思おもへ、夥あまり多く乃な金かね錢ぜを抛ち盗賊たう乃な番ばん人にんやら田で地ち
 乃な番ばん人にん中ちゆう大だい勢せい召めい抱ぶへとあま始し終しゆう心しん配ぱい一いつ氣きを
 附つき居る外まひおろれりおろる患ひもあく
 萬まん民みん枕まくらを安く家業かぎふを營めれるハあれ上かみ天てん子し様さま
 乃な中ちゆう一いつヤヤ政府せいふ小こ後ご役やく人にんが偽りそれハ法ほふ政せい事じを
 施せし強小ちゆうゆえ乃な事じあま實じつ小この年貢きん運うん上じやうを
 出いしか乃な大だい小こ於お惠めぐみを受ると思おもへ、世よ乃な中ちゆう小こ政せい
 事じあま安やすき物ハおろるませんさ世よ乃な中ちゆうの侍りハ

何事なニをすねすももおれれくく乃す入用いりようががせせくくハハおおぬぬ苦く

わわくく天子様てんしやうのの法政事ほふしやうををややままおおふふ諸役人しよやくにんのの月給げつぎやう

おおふふ紙筆かみふで些末さま乃す物ものおお至いたるる乃すててのの入用いりようハハ日本國中にっぽんこくちゆう

ハハ割合出わりあひいさせせるる乃す不ふのの仕法しほふハハおおががななまませんせん何故なにせおおれれ

をを國中惣軒こくちゆうそうけんより出いさせせるる乃すふふりりおおれれ色いろのの仕事しごと

ハハ日本國中にっぽんこくちゆう乃す人ひとハハ関係かんけいたたおお仕事しごとおおくくたたががおおらら大任おほにん

事ことををささげげももおおきき人等ひとらがが大執事おほしやくし合あははせせりりたたとといいふふ混ま

雜まのの生なまま纏まとりりがが付つぬぬゆゆ急いそ天子様てんしやう法ほ一いつ人ひとハハ法頼ほつたのり

たたりりけけふふハハ政府せいふハハ人民じんみんのの仕事しごとをを取と扱とふふ場ば所しよ天子てんし

兼かね、青あお員いん人にんハハ負おけけたたりり...

た... 政府... 人民... 仕事... 手... 足...

様ハ請負人乃頭取しやうとくておこなわれれば政府せいふがなされは

進ら乃仕事を銘々各々それぞれ一ふり引受取扱ひきうけとりあつかるる

あともう一年負運上いねんおんうんじやうを出すハ恰も己おのれのよふ命いのちを仕事

を人ひとふ頼たのむに於おけ入費いりひを辨わへると同格どうかくておこな

さるる又政府乃惠めぐみを受うくるも百姓町人ひやくしやうちやうじん皆同格みなどうかくと

今いまもて百姓ひやくしやうの一年負いねんおんを出いせしハ實じつ不ふ理りもなされ

るありしハいざう人々ひとびとおられゆゑ追おく百姓ひやくしやうハ耕作かうさくを

まふひ職人しやくじん商人しやうじんの業わざを傳つたへ終つひり産物えんぶつの出来く来き

がすくなくなり随まる職人しやくじん商人しやうじんの家業かぎやうも衰微すいゐす

る志してもとめる元来田地もとよりを耕作かうきし一年千兩の

收納あつりを得る百姓ひやくしやうが百兩乃年貢ねんきんを出いせ商人あきあひを

も仕事しごとをせしむも千兩乃儲たくわある商人職人あきあひハ同

トく百兩乃年貢ねんきんを出いしき苦くるてあるるは

了しけハいと知しるる也なりももままふふしし百姓丁人ひやくしやうぢやうじんも同どう扱あふ

政府せいふ乃惠めぐみをうけ同どう扱あふ日本乃土地にっぽん乃ちとに住居すまひも同どう扱あふ

日本にっぽん人乃權利けんりを保たもち皆みな同どう扱あふ安穩あんゑん不家業ふかごうを營い営えい

むゆ急いそてまるる也なりもも是こゝ迄まで百姓乃年貢ひやくしやう乃ねんきんを出いせし

變へん不ふ公平こうへい也なりもも終つひ不國乃產物ふくにん乃さんぶつ不ふ衰し微びす

成行なりゆきもも其そののの文ぶん也なり

實に不公平にして其色は... 終に國及... 爲す...

成行なりゆくにして... 政府せいふより租稅そぜいを

收納しゆりふする有稅ありぜいを法話ほふわしめせり先租稅まづぜいは二種ふたしゆあり別まべつを

法取上ほふりあげする事ことでござる一ひとを私有稅しりゆうぜいとして是これ

人ひと乃家產いえざん不付つひり取立とりだし運上うんじやうする田地家作てんぢかさく類たぐひ

乃運上うんじやうする一ひとを物品稅ぶつひんぜいとして其ハ絹糸蠶卵きぬいとたね

紙かみ乃類るるする産物えんぶつより收とまり運上うんじやうする物品稅ぶつひんぜいハ人

間ま必用ひつようする品物しんぶつからハ規則きそくありてそのそのから玩あそ

物もの乃類るる者もの後ご不屬ふぞくする物ものからハ重おもき運上うんじやうを取と

てて六むささの壁かべハ五穀紙油ごこくしあぶら乃類るるから運上うんじやうをとり

世娼妓藝妓の属ハ遊民ト云々世間乃為不何乃益也
 乃其もむだりくひておぎるさきど無理ふその家業
 を禁止す。當人乃自由を妨るけし落入政府ふく
 も濟ぬおとゆゑたゞ殊更重き運上を取立自然正經
 乃家業を營むゆゑも前も法
 話し通り日本中の人ガ政府乃為不年貢運上を納
 るハ詰り已乃仕事を天子様へ法頼ミテおき、その
 入用を辨へる事とせしハ銘々家産乃大小不從ひ公
 平不割合出銀するハ當然乃理合ておぎる且天子様



○性理大全

月落自
姑蘇
江相



意亭
 悟曉齋

入用いりようかぶぎかぶぎるその他ほか諸役しよやく所ところも小こまなまなるままの受持うけもち

かありかありるその仕事しごとを行なす費用かひようハ皆みな銘めいくくよよを納めとまと

は年貢ねんきゆう運上うんじやうふふくく辨べんししるるああととてておおぎぎるるささししばば足下あしげ乃なり

彼かれ是これ法論ぽうろん一いつつつとと理窟りくつハハまま僻論へきろんももくく正真せいしん乃なり

道理だうりををああんんふふささるるぬぬゆゆええかかとと思おひひ外ほか

⑤ 舊平きゆうへい

段だん々々の法ぽうアアリリくくだだききよよくく吞込ののこままくくとと僕わがハハままのの口くち

をを噤つとんでで啗たぐるるアアリリけけハハゆゆききまませせんんそそののままののああんんだだししののふふハハ

交易かうえき乃なりああららままととてておおぎぎるる僕わが乃なり考かうへへハハ天てん子し様さまがが法直ぽうちきハハ

法政事をおせいごとおぼしめし申すの事これまゝ、おぼしめし是迄公方様乃出可おの

愛ハヤがりせいせいあつたつと西洋人等ハ直あつたつふ法せいせい持攘あつたつおぼしめしたるう

と思おもひおもておも居あ外あとあふあ矢張やっはり以前いぜんの公方様こうほうさまと同おなト

事ことおおとおああままけけ小活せいかく一新いっしん以来いらいハ交易場かうぎじやう乃な数かずも殖はえは當あた

時ときててハは寸度すんたう五ヶ所ごか所てておおぎぎるるナントナントおおまますすトトハハ更さらおお合あ点てんス

行いぬぬままととててハハおおぎぎりりまませせんんハハああるる方かた乃な法活ほっかくハハ元来げんらいハ

の日本にっぽんとといいふふ國くにハハ神國かみくにてておおぎぎるるかか日ひ本人にほんじん乃な知意ちいと

ソそのの中なかハハ西洋人等せいやうじんらう乃なおおままじじびびももままじじららししてて物事ものごと

何なにもも角かどもも一いっ分ぶん小備せうびもも何なにもも不足ふそく乃なああいい世界せかい随ずいハハ國くに

ざろろておぎろろそあて慾乃深い西洋人等ハ已が愚國
よめい 物事不足だろりけいぐ物ごあろ世界
せかい 中乃國ハ唯
ただ 一ツ乃日本國と目掛くまろ彼奴等乃國乃何乃益
えき 小も立才の品物を持渡り日本乃結構なる品を
かひ 買出し追々日本乃諸品を置蓋し結局ハ日本國
のり を乗取ふとろ不届千萬を企をまろろめておぎろ
ま ろ進ゆる近來諸色が掃底ふろ物乃直段ハ三
ホ 乃二増倍三増倍おもあろろ誰も彼もろる難法
ま 一居り外ハおぎろろ家彼奴等乃仕業ておぎろろ
ま

月也月也
 卷下

ど悪い西洋人等をふんで天子様ハ大事ふあきらま
彼奴等乃ら通とほりふあきらまゆるトントコツけがらか
らぬあきらまゆるあめ舊平杯ハ藥罐頭が沸騰るゆりふ
思ひ外かいト

関次郎

舊平君足下まご正真の道理を志んふさるぬゆゑか
のる疑乃生づるあとおくおんおはせぬ僻論を強
く言立を志んふさるると誇ふりし闇黒乃恥を白日へ出す
ゆるふさるものおき誇り足下乃頑固がらかり却る人

是^ま迄^ひ日本^にハ日^を奔^りだ^けて何^の一^つ不^自由^な居^る外^に

國^と交易^がが^まず^まら^ず諸^の色^々高^直小^をり^下か^難淡

ま^るり^のハ^はり^ません^何故^とソ^も人^間ハ^一日^も文

易^せね^ば居^らず^ぬの^まり^交易^とハ^自分^の餘^分

品^物を^以て^自分^の思^ふ品^物と^取替^へる^に

と^でぶ^さる^まじ^も世^のみ^らさ^るト^め乃^に交^易ハ^い

を^ゆる^物と^物と^取替^へる^に譬^へハ^穀屋^の米^ハ

已^の餘^分米^を以^て紙^や半^四房^の紙^と取^替へ

織^物屋^の杼^助ハ^已の^餘分^の織^物を^以て^金物^屋の

織物屋の杼助ハ已の餘分の織物を以て金物屋の

錢物屋の... 金物屋の...

鉄蔵乃双物鍋釜と取替へるかくをドめハ物と物

との取替へるしく居た所が段々と不都合乃た

の多きゆ急又一乃知恵を生ド通用金といふ

のを製造たるをけて金とする通用金がある我餘

分の品物を通用金に取替へおき何時もくも不

しき品物を入用だけ求るおと出来るゆ急以前

ハ百倍の便利を増しおとせたり通用金が

出来くもゆ急賣買交易杯といふ名目も出来く

賣買交易杯といふ事乃大本を考るぬおとふあつた

昔も矢張以前の物と物との取替ふ事お違ふ事あり
 昔も人々も使ひ入るが日用なる品物を賣買す
 るは矢張此の交易も今でい交易も人々之に西洋
 人と賣買する事乃極小の事思ふに大いなる誤て
 ざる又西洋人と交易をせねばやむを得ず試み考
 りおと人々も今も何れも細かあり人々日用
 品乃賣買の出来ぬ事乃事件かおつらば各々乃
 難渋ハ勿論終末の世小人種が盡る事成行ませ
 ナント此等乃理合を告知人々も是れ交易ハ天道

兼乃其速急なり人同乃大利益とする物なり事

此等乃理合を告知人たるは是れなり交易ハ天道

様乃法趣意少く人間乃大利益とする物なり事

ハよく見たりませうとせば日本同士交易するも西洋人

と交易するのち只大きいと小なり相違のち少く理

合ハ同一事ニハ天道様乃法趣意小後ハ人間ノ幸

福を増さんため乃仕業ておぼるそせ小頑固なる人ハ

や世日本ハ日本だけぢも小一不自由なる杯をささ

外ハ皆理を志すぬ言葉でぶさる既小不自由スあつた

驗ハ天保年中乃饑饉を法考へたせ外ハ其の時ハ

道傍ハ行倒る居る者が山乃中ハあつたと外ハさる

古より乃を好む天性とせがある者ものどかき唯一ひと通り入用いりような物
 をかりでハ用が足りませんとせよ一通りひととね乃物ものをかりてす
 むとふハ律まじ小開ひらちたふ國乃くにまじとておぎる今日けふ入用いりような
 物ものをかりかぞへせバ米味噌あめしり醤油あじう新炭油あぶら乃新炭油あぶら乃新炭油あぶら乃
 数品かずしほておぎるさきハ衣類いりふく杯しやくも木綿きわたでしたふた乃が
 一二枚いちふまい家居いえも巾たふし乃楠たつき小茅かや乃屋根やね少く用乃もち三さんりも
 少すくりやせじ借かかし人乃ひとその通りとおハ行ゆハるるて已おのれが勉強べんきやう
 小少すくり自然しぜん饒福じやうふく小少すくり衣類いふくも木綿きわたより細こつむぎ
 小少すくり縮緬ちぢめんと段々だんぐ美物よきものを器用きように家居いえも木作きづくりよ

土藏どぞう土瓦つたがわ石作いしがくと段々だんぐ美室よきむ小居おのるを好むこの

ハ大日おほひ天然てんねん中ちゆうく人間にんげん乃すなは天性てんせいてまぎるたぎ壁かきへバ煙たん草そう

りよとのハ昔むかく交長まひちやう乃すなは頃ころ外國がくこくかたもドめく種たねが己

たり九州邊きゆうしゆうへんふく作りつくりそのめくものみくその後のち火災そと乃

恐おそれがあるといふく徳川三代とくがわさんだいの公方様こうはうさま乃すなは頃ころハ彦ひこ作つく

るちとを禁止きんしたりをせどつひ不廢止ふはいしるおとぶ出で来きず

今いまてハ日用いちよう乃すなは一品ひつぽんみく煙草たんそう煙草たんそう入いれ喜世きせい尚なほ乃すなは數かずを

賣う買かひしく後世ごせいさくる者もの數かずへ盡つくさる人ひとおとでハちぎる之

かそのふか女おんな乃すなは搦かぶ杖ぶちとの属たぐひハ實まこと小奢せうしやをまにめく

之のて是皆世乃開希とあるしておぎるさきハ船来
 乃藥種砂糖鉄類羅紗西洋水綿時斗石鹼の類
 もまこと今日乃日用物も今急小交易を法禁止小
 ちきこ田舎ハ志る以東京杯少くハ惣も支るものが
 沢山あるおぎるさきハ政府も外國交易を法
 開きあさつるハ畢竟銘と乃為小互小不しき物を
 取替へ物事を全備し人問乃歡樂を増させん
 ため乃おとみく五ヶ所乃交易場てハまこと不足な位
 ておぎるさきく徳川家てまどめく外國と交易を

考へるにありあつてきまつておき

六 舊平

足下乃法理解より外國と交易乃理合より僕

乃是迄乃疑ひの大抵とけ外とさきどまじく拮据

引込りけふいゆきませんそ事いあの節政府より存

へ學校を法取建ち下へ學問をするゆく法世

話あきる學問をする事いよの事だとい聞る居り外

が當時は上あき法勸ちる學問い人な横文字

あき一寸見ると蚯蚓が乃とくふと居るやうな文字

さかり是追あれま乃學問かくもんハ皆法しな廢た一いちめく四書五經しよきやうきやう杯はいい

ふらてのハ手てふてるてものもやうまままのまとささううく見みるると

日本にっぽん乃是これ迄まで乃書しよハ藉せきととの物ものハ益やく不ふ立たぬ物ものてたががささるる

かかたたふふも益やく不ふ立たぬ物ものあるる今いま追おくくが珍ちん重じゆうするる苦くも

儒者にうしやや學者がくしやを尊そん敬けいするるけけるるががざざりり外ほかままひ

ささききハハまませせららハ政府せいふて西洋せいやうががきき乃乃ととままららああるるややんんててり

彼奴等まがらら乃物ものああるるかかままららんんよよままままととだだと思おもひひ大だい不ふ妖ま惑ま

ささききととみみららととままららててハハおおぎぎととんんか

開次郎

成程此等乃疑心一應ハ法尤乃中ノ聞ゆ事トモ
 ハ深き理合乃ある事トモ先文字トモ人
 の意を達一世乃中乃理合を知るため乃道具トモ
 言ふ事乃あり物を物トモ漢土乃文
 字トモ物ハその数ニ萬六千トモある事トモ
 字を用る用を足さんと思ふ者ハ文字を知る者
 二年三年乃日数を費やさねハ事トモ又
 日本乃いろハ四十七文字西洋乃横文字ハ二十六
 文字トモ日本や西洋の字を知るハ一月トモ

出来できるまけりぬくまの得とく失しつを考あへばむづかしきの文字もじ
乃な為なるま余あ斗とるま光ひ陰かげを費つやらぬま真ま亦また無む益やくなるまとす
おおぎぎるまももとと文ぶん字じととりり物ものハ前まへもも話わ話わト通とりり世よの中なか
乃な理りを知しるま為なるま乃な道だう具ぐををききバ恰あもも大だい工こうや左さ官くわん乃な鑿さく
おぎぎるまとと同どう様やうな物ものででおおぎぎるま今いま大だい工こうや左さ官くわんが道だう々々
むむかかりり沢たく山さん所しよ持ぢしし居ゐるま家いえをを作つくるまおおとと壁かべ
をを塗ぬるまおおししをを志しすま身みハ用もちぬま立たてま外ぐわいままひひ學がく問もんとと
くくもも同どうトトおおししいいか程ほどむむづづかかししきの文字もじを沢たく山さん知しとととと
理り合あを志しすまねねバ用もちぬま立たてま身みハ道だう具ぐががのの穴あな

鑿さく金きん小二年三年費つひ也やすは馬ま麻ま乃の上う也や疾あ獸じゆうの親おや玉たま
 とも中ちゆうませりませ漢かん文字ぶんじ乃の不便びへん也やとらるて也やぎる又
 學がく問もんとは唯ただむづかりき文字ぶんじをしり解かいとらるる古文こぶん
 をよりき和歌わかを詠詩しを作るるとら世よ上う不ふ實じつ乃の亦またき
 文學ぶんがくをらいまとらいぎぎりませぬまきふ乃の文學ぶんがくも随
 分ぶん人ひと乃の為ためあらるるとらあらせしもも古こ来らい世せい間かん乃の儒にゆう者しや和
 學者がくしやふとのり程ほどさまりて何なにかめ尊たうとむべきものでハ出
 ずらぬ昔昔むか一いようを漢漢かん學者がくしや不ふ世せい帯たい持もち乃の上う手てあらるも
 のも収まく和和歌わかをよくく高たか賣う不ふ巧かう者しや也や町ちゆう人

まじれも稀まじれておぼざるそきゆ急心ある百姓下人ハその子乃學問
しつせい不出精するを見そやかく身代を持崩すとさく人と親
ちろ心不配することのもありそ無理ならぬけておさる
かおきその學問の實不遠く日用の間不合ぬ後據て
いまおぼざる今かくる實なき學問ハさくあり専ら勉むべ
あり人間普通日用乃學問ておさる譬ハバいろは四
し七文字を習ひ手紙乃文言帳合乃仕方算盤乃
けい古天秤乃取扱等を心得な不又さく人で學むべき
か簡條ハおぼざる多くおぼざる地理學ハ日本國中ハ

とちろんせかいかんおく
ふりとまあんいきりがく
えちえんとつ

勿論世界萬國乃風土道業内究理學とハ天地萬物乃
 性質を見分希その衝を志る學問歴史とハ年代記乃
 物々々々國古今乃有概を詮索する書物經濟學と
 一身一家乃世帯より一國天下乃世帯の持やうを説くもの
 修身學とハ身乃行ひを脩め人ハ交り世の世を涉る處まで天
 然乃道理を述たるものなり是等の學問ハ人乃貴賤不かに依
 一般不知らで叶ぬものなりハすでハ學問乃す多しといふも
 不記載しとせざる何故まき事乃事を志るでかまぬといふも
 へバ寒氣乃強き時を志る寒きを防が人が為障子を閉

密あめに火ひを盛まりあまい大勢たいせつ群ぐん々々居ゐる皆みなかたくに通まり
 上あり鼻はな血ちを出ですやうやうなるあとがあらるまは空くう氣きか流り
 通とせん炭たん素その物ものが外あへ出でぬゆゆええに究きう理り學がくを志し
 人ひとの志しきくふふあり理りを悟さとるあらる又また人ひとといいふもの
 前まへ日ひの儲たくわを貯たくわへ今日けふ乃すなはち生活しやうかをすする苦くる乃すなはちのあらる
 無む益えきなるあらる一ひと錢せんも用もちひ今日けふ乃すなはち儲たくわを溜ためあらる
 後ご日ひ乃すなはち患あらる病びやうなるあらる身みにあらるぬあらるてあらるあらるあらる理り
 合あはる志しるあらる經濟けいぎ學がくを志しるあらる人ひとの他た人ひと乃すなはち異い
 見みを受うけあらる及およびあらる自然しぜん自じ然ぜん自じ然ぜん自じ然ぜん質しつ素そ儉けん約やくをすするあらる

ておぼやうなること おぼやうなること ありせらるる皆 皆 學問乃力て 學問乃力 ありせらるる ありせらるる せんふ

まの まの 不 不 百姓 百姓 あり あり 耕作 耕作 乃為 乃為 是迄 是迄 乃仕 乃仕 事を 事を かく かく 改正 改正

し し 一方 一方 が取上 取上 高も 高も 殖 殖 え え 手 手 数 数 も も かく かく ぬ ぬ 此等 此等 の事 の事 を

考へ 考へ る る ふ ふ 植物 植物 學 學 地質 地質 學 學 化學 化學 採入 採入 用 用 あり あり 職人 職人 あり あり せ

此車 此車 在 在 來 來 の造 造 り り 方 方 かく かく 改 改 正 正 した した 方 方 が が 手 手 輕 輕 く

便利 便利 あり あり 人 人 かく かく 事 事 を を 考 考 へ へ る る ふ ふ 器械 器械 學 學 入 入 用

なり なり 商人 商人 あり あり せ せ 品物 品物 何 何 國 國 乃 乃 出 出 來 來 たり たり 製 製 法 法

元 元 手 手 何 何 程 程 位 位 かく かく 世 世 間 間 へ へ 一 一 年 年 乃 乃 賣 賣 し し 高 高 何 何 程 程 位

と と 此等 此等 の の 事 事 を を 考 考 へ へ る る ふ ふ 地 地 理 理 學 學 物 物 採 採 入 入 用 用 あり

才力^{たうりき}一^いし^くも^ん身^み等^らの^{がく}學^{がく}問^{もん}ハ^い今^{いま}迄^{まで}日^に本^{ほん}人^{じん}乃^{なり}氣^きが^つ附^つぬ^おち^し
 亦^{また}皆^{みな}西^{せい}洋^{やう}人^{じん}乃^{なり}考^{かう}へ^い出^いし^く事^{こと}亦^{また}身^み等^らの^{がく}學^{がく}問^{もん}を
 する^し亦^{また}何^{なに}れ^も西^{せい}洋^{やう}乃^{なり}翻^{へん}譯^ぎ書^{しよ}を^と取^と調^{てう}べ^た大^{たい}抵^{てい}乃^{なり}事^{こと}ハ^に日
 本^に乃^{なり}假^か名^な亦^{また}用^{よう}を^え便^{べん}し^て或^{ある}ハ^は年^{ねん}少^{せう}し^て文^{ぶん}才^{さい}あ^ること
 の^へ横^{よこ}文^{ぶん}字^じを^も讀^よみ^せ一^い科^か一^い學^{がく}も^じ實^{じつ}事^じを^お押^おへ^るもの
 事^{こと}亦^{また}就^つき^しその^{もの}物^{もの}ハ^た後^ごハ^た近^{ちか}く^{もの}物^{もの}事^{こと}乃^{なり}道^{どう}理^りを^し知^しり^し今^{いま}
 日^に乃^{なり}用^{よう}を^た違^{ちが}へ^る事^{こと}亦^{また}肝^{かん}要^{よう}て^おま^る君^{きみ}ハ^た人^{じん}間^{かん}
 普^ふ通^{つう}乃^{なり}實^{じつ}學^{がく}ハ^た人^{じん}ノ^{もの}心^{こころ}得^えて^おま^る其^{その}の^{こころ}心^{こころ}得^えあ^らし^後ハ^た四^し民^{みん}も^も人^{じん}乃^{なり}危^あん^ふ
 心^{こころ}得^えて^おま^る其^{その}の^{こころ}心^{こころ}得^えあ^らし^後ハ^た四^し民^{みん}も^も人^{じん}乃^{なり}危^あん^ふ

ちやうに家業を營いそみ次第しだい小繁昌こはんちやうありつゝい不ふ獨どく立り不ふ羈きの
 人間にんげんとちやうとあつてあああぎぎううるるままとと漢土かんち乃な學問がくもんも隨ま分ぶんよりよき
 ありともあり人乃ひと為なるる小こままるる愈いままありともありあややききとと究きゆう竟けい
 理り合あひひるる身み程ほど乃なああららふふははくくくく文字もじののむむづづかかくく
 骨折こつせつと利益りやくとを較くらべべにに到底とうてい利益りやくははすすくくななききままららななくく
 今いまてもも強あままがが法お上のりよりよりり漢學かんがくをを法お度のりににああままののたたくく
 といふ事ことははああららううまませんせん只ただ西洋せいやうのの學問がくもんををくくくく方かたがが日に用ようのの
 益えきああららうう身み乃な為なるるああららううゆゆ急きゆう專せんよりよりり法お道のり守まもりりまま
 するするるここののけけいい古こ來らいよりよりり學問がくもんのの道みち博ひろくく博ひろくくをを厭いとひひつつてて

問心問答
 卷一

外ちかあつ力ちかがあつて根ね葉え乃なりよき人ひといその人ひと乃なり了りやく簡かん次じ
 第だい和わ漢かん洋やうももひろく學まなぶがよき事ことであらう唯ただ
 普通ふつう乃なりく乃なり學がく問もんの理り合あひをま知しるを專せん一いつとして假か名な採さい
 用ようを足たす方ほうが便べん利りゆ急きう法ぽう上じやうても其そのの法ぽう趣しゆ意いを
 以もつて所しよくへ學がく校がうを取と設と讀よめ易やすき文もん字じもく入い間かん日じつ
 用よう乃なり為ためにあつて學がく問もんを教しゆへ人ひと才さいを法ぽう育いくをまましして
 ぶぶらぶらと斗たうつを西洋せいやう人じんの妖ま惑わくさうと居いる採さいといはる
 畢竟ひつじやう學がく問もん乃なり理り合あひを知しるならぬ足た下げ乃なり頑がん愚ぐと
 してして

七 舊平

妙く足下乃清溝釋とくく西洋乃學問を學ぶまなげハき

つかりしよりハりましとく志こころかこころしこころく身みヲを就つくハもく一議論いぎろん

世ねバあくぬまとがおさるくそせハたの頃世間乃風俗を見み

るるふふ子こ是こゝ追お乃家作かまを西洋せいやう風ふう乃作りつくりの頭ハ散さん發はつ

みみくく身み軀くハハ窠そ袖そ細こ袴はを纏まとひ食物ハ牛乃油煎あぶらハ

よよハ乃家乃煮附にハ志こころよよ乃のととららみみく居いハハ外そとナナニニ是こゝ

てハハままくくて西洋人ハせいやうじん随ま後ごく志こころままつつくく中ちゆうハハ真まこと

不ふ歎たうカハハいいままくくハハおおぎぎくく人ハ是追これ四足よんあしを人良ひとよしふふ

開元門

卷一

五

神様乃罰があたる穢けがらハ一い物だと日本乃人ハ誰たれも
 食ふ者ハあざふぬたあくく菜食ハ猪ちちども食へバ三日
 の間ハ神様へ手を合あせし事ハ出未ぬ程乃まじし
 事ことであら神國乃貴たかいとあらがあらししいよものでま
 じし事ことを此節このまじハ牛鍋うしなべちか牛の
 乳ちがよふスちうんどろかどスといひちらしその口くちを漱すすも
 せん神棚かみへ向むひし拜禮まがらひをよげしい水程拜禮みづほどをさ
 してしてちんて神様ハ承知あやうちなき事こともせし罰乃いし當あ
 らぬハそのく乃幸さいておきり又家作りも是迄日本ハ日

本^{ちやうちやう}だ^つけ^く小^{ちひ}い^くく^くも^も調^{てう}法^{ぽう}を^を作^{つく}り^方も^もあ^あり^いま^ま流^{りゅう}を^を作^{つく}り
 方^{かた}も^もお^おぎ^ぎろ^ろそ^そせ^せを^を必^{かならず}し^し煉^{れん}化^か石^{せき}ど^のの^の石^{せき}作^{つく}り^たの^のく^く
 無^む益^{えき}小^{ちひ}高^{たか}い^い金^{かね}銭^{せん}を^を費^{つひ}中^{ちゆう}何^{なに}乃^{なり}利^り益^{えき}が^があ^あり^ませ^せろ^ろ唯^{ただ}
 其^{その}家^{いへ}小^{ちひ}住^す居^{まゐ}る^るく^く頭^{あたま}も^もし^しや^やく^く不^ふ西^{せい}洋^{やう}人^{にん}を^を真^ま似^に
 る^るよ^よ更^{さら}不^ふか^か功^{こう}能^{のう}ハ^ハお^おぎ^ぎり^り非^ひま^まひ^ひ又^{また}衣^い服^{ふく}も^もま^まろ^ろだ^だ冬^{ふゆ}ハ
 綿^{わた}入^{いれ}夏^{なつ}ハ^ハ單^{たん}物^{ぶつ}と^と日^{にっ}本^{ぽん}人^{にん}ハ^ハ日^{にっ}本^{ぽん}服^{ふく}て^て沢^{たく}山^{さん}用^{よう}が^が足^{たり}く^く居^を
 り^り非^ひそ^そせ^せを^を世^よ乃^{なり}生^{せい}物^{ぶつ}識^し乃^{なり}半^{はん}生^{せい}熟^{じゆく}な^な奴^{やつ}等^{らう}ハ^ハ今^{いま}急^{いそ}
 小^{ちひ}氣^き乃^{なり}附^つく^く中^{ちゆう}窄^{せき}袖^{しゆう}細^{さい}袴^{かほ}を^を着^き用^{よう}ち^ち編^{へん}蝠^{ふく}傘^{さん}を^を手^て
 不^ふ持^{もち}驕^{きやう}慢^{まん}を^を面^{めん}付^つを^を偶^ぐ恒^{へい}體^{たい}る^る衣^い服^{ふく}を^を着^きこ^こる^る

明^{めい}治^ぢ七^{しち}月^{げつ}廿^{にじゅう}二^に日^{にち}
 卷^{まき}之^の一^{いつ}

ぐ不逢へハ開きぬしハ野蠻たしがひふ夫の人等の仲
 間かゝハ人間てあるいさうふ中々居り非殊ハ異風
 ハ散髪ておびるもハ人乃女房でも盗こテ海かまひし
 以時ハ頭を剃あ叩一坊主ハあましく詔とこめておびる
 さいバ當時乃人ハ之を悪事とぞ思ふ下心を以て轉
 ぬ先乃前杖ハかく散髪ハしりとあましく何ハ志ろ合
 点のゆゑぬ下筒ておびるその僻もしく高慢もしく散髪
 不ちせバとも直ハ物識りのありをわすれし文明だもか
 開化だもハ開きぬたしが開きぬしハ白痴が新田

開化

新田

開敷あきをきくきやうやうかかととききりり居いりり外あききはは是こ等らハ

皆みな余あ斗とああるる仕し事じハハ了りょう簡かんももああくく無む益えきハハ西せい洋やう

人ひと乃すなは真ま似にををききくく人ひと等らハハ多たくくやや斗とハハ自じ然ぜん人にん情じやうがが浮う薄はく

不ふききりり徳とく實じつをを心こころハハ失しくく終つひハハ真ま實じつ西せい洋やう人にんハハ随ずい後ごふふや

ううちちりり行ゆきまませせくくききせせハハ矢や張ちやう是こ追お通とりり髪かみをを結むすひひ袖そで乃すなは

ああるる衣い服ふくをを着き用ようせせくく西せい洋やう風ふう乃すなは家か作さくをを禁きんトト四し足そく

ハハ食くぬぬややうう法ほ布ふ令れいののああららくく方かたががよよいいかかくく思おもひひ外あ

開次序かいじしゆ

成なり程ほど足たり下くだりり理り窟くつハハ一ひと應おうハハ法ほ允いん乃すなはややうう不ふ聞もんゆゆををととまますす

問不問答
卷一

竹先府





正真乃理合りあひの更さらに知人しじんをさすぬおとておとておさる先食物まきものと

者ものハ畢竟ひつまじやう身躰みんたう乃なり滋養じやうの食くふけあんでも

身躰みんたう乃なり為なる物ものを食くひまるけハからぬおとておさる

そを日本あつちの食物まきもの者ものハ只口ただくちふうまきを專せん一いつとく

養生じやうじやう杯はい乃なりあとハ聊いさかもかまいませぬませば日本あつち人じんハ根氣こんき

弱よわく西洋せいやう人じん乃なりやうふ蒸氣じやうき船ふねや傳信機でんしんき杯はい乃なり大發明だいめいめいを

出でる事ことハ出来できませんさきく第一だいいち身躰みんたう乃なり滋養じやうのけらる

至いたき食物まきものハ牛肉ごうにく牛乳ごうにゅう猪肉ごうにく鳥肉とりにくの類るいもくあらハ西洋せいやう

人ひとハ化嚙くわがくとちカハ物もの乃なり原質げんしつを取調とりあてへる學問がくもんもく悉まこと

く調へ聊疑のあひあしうそあぎらふ又昔一ハ獸乃肉を食ハ
 ぬと云ハよく古一ハを考ふぬ人乃言葉であぎらふ既小七
 語拾遺より書籍小大國主神乃營田乃日小実を以
 田を作る人小食了め給つるまじかあぎらふ又人乃世
 ありくハ仁徳天皇様ハ鬼麻野乃麻の声を聞くるその
 肉を召上る忍びたまひん孝徳天皇様ハ牛の乳を飲
 んたまひく其身を献せしもの小和薬使主しふ之氏姓
 をたまひり一杯いふ一ハ獸肉や牛乳を用る給ひ一澄
 據あく皆悉く書物小書載くまじる時小令ても信

づきか安直やすち不出い来き外がかきせせばあふあふるる無む益えき小せう金きん銭せんを
 費つ少せうくくとと不ふ理りハハおおぎぎりり外がすすひひををせせしし不ふままどど一いつつももと
 ががおおぎぎるるももとと流りゅう行ぎょう病びょうとと不ふ理りののハハ水みづ洒しりりやや腐くさ敗ばい物ぶつの
 大だい陽やう不ふつつととせせのの蒸い費れい氣きをを人ひとがが嗅かひひ込こめめるるせせかから
 發はつつたたるるおおぎぎるる又また空くう氣きとと小せう物ぶつハハ大だい切せつををるるももののふふらら
 空くう氣きががああるるせせばば人ひと間まハハ生せい活かつとと居いるるたたららがが出い来きまませせん
 多たくくせせゆゆ急きゅう家か他たハハつつととめめくく空くう氣き乃なり流りゅう通つうすするるのの水みづ溜たま
 りりやや腐くさ敗ばい物ぶつをを清せい潔けつにに掃そう除じゆのの出い来きるるややああららままへへるるが
 肝かん要ようととおおぎぎるるせせをを是これ迄まで乃なり家か他た乃なり仕し方かたああららままハハトト不

月也月也
 卷下

ちやちやちやちやの床に低い風に入らば椽の下に水
 が湛へて居る腐敗物の家乃周圍に棄てありナント
 是で八年中薬と病と乃絶えぬはあらず人か
 ちやちやちやちやの窄袖や細袴を著用せしむるを
 先日本乃大古
 乃乃風俗ハ之を窄袖とて頭も惣髪の揃下けたる大
 きき古き画杯も見えし書物も漢土の風が後り袖も長く
 山がたつちやちやちやの中古より漢土の風が後り袖も長く
 髪も結ぶしよちやちやちや半髪野良頭とて

ちやちやちやちや
 ちやちやちやちや
 ちやちやちやちや

ものハ乱世乃陋（らんせい乃らう）き 風（かぜ）くやく（やく）三四百年以来乃
 ありてあざむるさきく人（ひと）のハ便利を專（せん）一（いつ）かせねバ
 ぢやぬもの少く譬（たと）へバ物を運ぶ小荷（こが）ふよう車（くるま）及方
 が便利（べんり）よきゆゑ自然車（じぜんくるま）を用ゐるやう小成行（せうぎやう）志（し）とあは
 萬事（ばんじ）も亦（また）同（どう）ト事（こと）してあざむるを身（み）ゆゑ長い袖（そで）のふた
 ちやぬく（ちやぬく）一（いつ）く邪（よこしま）テあやむるよう誰（たれ）も便利（べんり）よき窄袖（せうそで）を
 著用（しやくよう）するおとあはく（あはく）る身（み）を不便（べんべん）ても長い袖（そで）の衣服（いふく）を
 著（き）ろといふやうぢやなバ世（よ）乃中（ちゆう）の仕事（しごと）皆便利（べんり）を合（あ）は
 不便（べんべん）なるおとあはく（あはく）る身（み）を不便（べんべん）ても長い袖（そで）の衣服（いふく）を
 不便（べんべん）なるおとあはく（あはく）る身（み）を不便（べんべん）ても長い袖（そで）の衣服（いふく）を

子^こを^を代^{しろ}を^を剃^ひま^か日^ひ少^{すく}て^て身^みを^を霜^{しも}不^ふ養^{やう}
 う^うた^たせ^せ一^{いち}寸^{すん}考^{かう}へ^へも^も天^{てん}道^{だう}様^{やう}乃^の意^い不^ふ悖^{はい}毛^{もう}不^ふ養^{やう}
 生^{せい}乃^の丈^{ぢやう}と^とて^てハ^ハび^びぎ^ぎら^らん^んか^カ第^{だい}二^に便^{べん}利^りと^とハ^ハ一^{いち}寸^{すん}他^たへ^へゆ^ゆく^く不^ふ
 毛^{もう}髮^{はつ}結^{けつ}乃^の手^てを^を待^{まち}す^す我^{わが}手^てう^うく^く撫^な付^{つけ}用^{よう}が^ガ足^たり^り外^{がい}
 第^{だい}三^{さん}便^{べん}約^{やく}と^とハ^ハ油^{あぶら}之^の結^{けつ}乃^の冗^{じゆ}費^ひを^を省^{しやう}き^き殊^{こと}不^ふ夏^か向^{むか}ハ^ハ髮^{はつ}
 付^{つけ}油^{あぶら}の^の蒸^{せい}發^{はつ}臭^{くさ}き^き白^{しろ}ひ^ひも^もな^なく^く誠^{まこと}不^ふ愈^{よく}快^{かい}な^なら^らず^ずて^て六^む
 ぎ^ぎら^らト^ト是^{これ}等^{らう}少^{すく}て^ても^も散^{さん}髮^{はつ}乃^の利^り益^{えき}ハ^ハ多^たかり^りナ^ナら^らず^ず
 う^うさ^さく^く段^{だん}々^々法^{はふ}活^{かつ}り^り通^{とほ}り^り肉^{にく}類^{るい}ハ^ハ養^{やう}生^{せい}乃^の為^{ため}不^ふ食^{じやく}ら^ら
 不^ふ多^たけ^け殊^{こと}不^ふ昔^{むかし}一^{いち}寸^{すん}天子^{てんし}様^{やう}を^をト^トめ^め乃^の召^{めい}上^{じやう}ら^らせ^せ一^{いち}寸^{すん}と^と

西洋風せいやうふうの家作かましく窄袖せうせき散髪さんぱつももろろあれ便利べんり養生やうじやう
 乃な為なてなおおぎぎるる且かつ窄袖せうせき散髪さんぱつハ日本にっぽんの古風こふうややは強あつ西
 洋やうを真似まねるととりり小こささけけももおおぎぎりり外あはままひひききききはは足下あしもとの法
 論ろんハハ之こ本ほんを正ただささぬ誤あやまりまり一ひとりりも理り合あぬぬままととややおおぎぎるる
 従したがへへるる世よ乃な半なか生ま熟じゆく先生せんせいハハおおぎぎるるののりりけけもも志し
 以も只ただ七月しちがつ誓ちかひひ開化かいけめめかか人ひとももありりくく真まの物もの識し乃な眼まなこ不
 片かた眼まなこ痛いたむむたたののもも多おほりりてておおぎぎるるささををいいちち自然しぜんとと此等
 の規則きぎ不ふかかままへへいいままくく當人たうじんの為ためハハいいかか程ほどハ利益りやくありりま
 ともとも不ふくく他た乃な偏屈へんくつ不ふ疑結ぎけつく居ゐるる人ひとはは幾等いくとう乃な徳とくを

得^えるか志^しすま^せん唯^{ただ}ねか^いく^い此^こ等^らの人^{ひと}半^{はん}生^{せい}熟^{じく}あり
浮^う薄^{はく}心^{しん}をやめ真^ま實^{じつ}なるその利^り益^{えき}を受^うるやう^{よう}に^いたり

八^{はち}舊^{きゅう}平^{へい}

足^あ下^{した}乃^{すなは}法^{はふ}話^わハ^ハま^まく^く法^{はふ}を^を至^し極^{ごく}よく^{よく}吞^の込^こま^ました僕^{わが}も

今^{いま}迄^{まで}ハ^ハそ^そん^んも^も道^{どう}理^りハ^ハ分^{ぶん}ら^らず^ず唯^{ただ}昔^{むかし}ハ^ハ堅^{けん}氣^き乃^{すなは}偏^{へん}屈^{くつ}か

ら^ら此^こ頃^{ころ}乃^{すなは}ま^まと^とか^かた^た人^{ひと}で^でも^も皆^{みな}異^いれ^れみ^みて^てる^るさ^さや^やら^らし^し思^{おも}は

る^る居^いた^たが^が今^{いま}乃^{すなは}法^{はふ}理^り解^{かい}で^で始^{はじ}ま^まる^る夢^{ゆめ}が^がさ^さめ^めま^ました^{した}さ^さり^りか

の^のう^うま^まじ^じり^りと^と僕^{わが}の^の胸^{むね}に^に流^{なが}る^るい^い事^{こと}が^があ^あら^らる^ること^{こと}に

ぢくたしらす小蒸象車せうしやや傳信機でんしんきの事ことてぶさる世間せけん

乃の導みちをさく小こ鐵道てつどうを造つくる小こ人ひとを生理いさぎゆめ不い志しふふるるれれバ

出来ぬ傳信機でんしんきハ女にょ乃の生血いさちを銅錄どうろくへぬるゆえ遠方とんぱうへ

音信おんしんが通つうづる是皆切支丹しんせんとん乃の仕法しほうあく西洋人せいやうじんが此等こゝろ

の事ことと日本人にっぽんじん小見こみせ膽たんをつぬさせその虚きよ小乘しやうじやう一日本いちにっぽん

を奪うばふといふ不届ふとど玉たま扱あつかゆる計畧けいりやくたとい觸ふ一外いそささるる小

去年こゝろの春はる西國せいこく進しん乃の百姓ひやくしやう一揆いったい此等こゝろの事ことか起おこるるた

外いそ僕ぼくもそん馬ま床どちちといいままかかららううといい思おもへへどどもも銅どう

錄ろくふふもも百ひやく里りもも二に百ひやく里りもも先まづへ便べんりりがが出い来き二に十じゆ里り三さん十じゆ里り

乃道このちを總くわん一時ひとときか半時はんじゆ小往復せうふくをも見みせしハ誠まこと不ふ一いつ
 ぎああく成程切支丹せいじやたん乃仕法しほふかと思おもひ外ほか殊こと不ふある物識ものし
 の法話ほふわ不ふ鉄道てつどうだの傳信でんしん機きハ西洋人せいやうじん乃國くにの中ちゆうりり野の
 山やまか幾萬里いくまはりも果もなき大國たいこく不ふハ重ちゆう之し變へんなきせど日本にっぽん乃
 如ごとき不ふ國くに不ふハ無用むよう不ふ物ものがその了りけハ日本にっぽんのぐるりハ盡じん
 海うみゆる急まよ々まよ用事ようじハ蒸氣じゆうき船せんもよく足りたりその回まわりハ日本にっぽん
 船せんより澤山たくさますハ文通ぶんつうハ飛脚ひきゃくヤハ托たくめハ果はか果はして
 二十日ふたじゆつの三十日さんじゆつもよく届とどりけしきまぐでそりあきハ次山つぎやま中ちゆう
 便べんふちりり居いりしとある今急いまま不ふ長崎ながさき横濱よこはまハ相館さうかんの

便ボ一日乃中不^{いぢしち}知^ちせらる^ちとく^ちそき^ち日^ちど頼^{この}む^ち金^ちき^ち用^ち事^ち

も^ちやく^ち落^ち入^ちると^ちあ^ちろ^ち無^ち益^ち不^ち物^ちて^ちぶ^ちさ^ちる^ちと^ち無^ち益^ちの^ちこ^ち

で^ちい^ちやく^ち高^ち人^ちち^ちど^ち不^ち大^ち不^ち為^ちあ^ちく^ちあ^ちき^ちま^ちて^ち諸^ち國^ちの^ち

相^ち場^ちが^ち急^ち不^ち志^ち斗^ちさ^ちら^ちゆ^ち急^ち大^ち坂^ち乃^ち米^ちを^ち東^ち京^ちへ^ち積^ち送^ちれ^ち

バ^ち利^ちが^ちあ^ちり^ち松^ち前^ち乃^ち銀^ちを^ち上^ち方^ちへ^ち送^ち斗^ちハ^ち儲^ちが^ちあ^ちり^ち一^ちに^ち

け^ちて^ちあ^ちる^ちそ^ち斗^ちを^ち鉄^ち道^ちや^ち傳^ち信^ち機^ちか^ち出^ち来^ちと^ちハ^ちそ^ちの^ち土^ち

地^ち乃^ち人^ちこ^ちか^ち急^ち諸^ち方^ち乃^ち相^ち場^ちを^ち知^ちる^ちゆ^ちえ^ち他^ち乃^ち高^ち人^ちが^ち買^ち

出^ち一^ち不^ち行^ちと^ちも^ち安^ち直^ち不^ちハ^ち夢^ちら^ち以^ち自^ち然^ち高^ち賣^ちが^ち表^ち徴^ちす^ちる^ち

種^ちた^ちと^ち法^ち活^ちな^ちを^ちツ^ちと^ちハ^ち法^ち尤^ちな^ちと^ちけ^ちで^ち決^ちぎ^ちる^ち事^ち

人小いたせ 鉄道てつどうや 傳信機でんしんき々々といハ物ハ切支丹きりしやん乃 塵ち
 法ほうみくみくあまを以もつて日本にっぽん人乃 膽いそみを挫くじぎつつハ日本にっぽんを
 甘あまくせせめややくくくくハ西洋人乃 惡斗あくどうててぶぶささるるそそままあるる
 方乃 法話ほうわの通り日本にっぽんああくくハ無益むえきな物ものなるるを政府せいふでハ
 更さらに法存ほうぞんトとあくくゆゆくくハ日本國中 鉄道傳信機乃
 充満ちゅうまんするるややりりちちききるるととののああららしし誠まことととくく痴あほう獣じゆうとと白痴ちがひととし
 尸しかばねややののちちききああららししああのの舊ふる平たい杯はいハ悔くししハツつツつ入い
 齒はを齧く碎くややりり小こ覺かくええ外ほか
 開かい次じ身み

開化月書
 卷八

舊平君矣禮多あまの足下の法話ハ皆深き理合を知ん

まきらぬあつておびざる先蒸氣車しつゝもの蒸氣乃

かて走る車ふく一合乃水を沸騰せ全く水があらむ

身バ一石七斗の蒸氣とあつて即チ七百倍乃容ておびざる

か、非常な膨脹たる蒸氣を捕へシリンドルとつて鉄管

乃筒乃中へ入せその發力を藉りて車を運轉させ

仕掛ておびざるもの器械を仕掛て車を機関車と

名付たり機関車より他の車二十輛乃至四十輛と

引おしておびざる車を製造ハ皆大丈夫とて鉄乃

輪わ四よノの宛あてををつけくるる造つくりかたたきき尋たづ常ねのの道みちをを走まるる
 が出来できませなんんその身みにに也や急いそ別わか不ふ道みちをを平たい平たい車くるま輪わ乃なり當あたるる
 ととああろろ小こ巾きん二に寸すん厚あサさ四よ寸すん許あのの鉄てつをを二に條じょう填みめめ常ね不ふ大おほ
 の上のをを往むか來きすするるおおととああららくくまま身みががいいそそゆるゆる鉄てつ道みちででおおささるる
 又また傳でん信しん機きととハハエエレレキキトトルルのの氣き力りきののよようう々々々々音おん信しんをを通とほ
 ずず仕し掛かてておおささるるおおののエエレレキキトトルルとといいふふ氣きハハ天てん地ち間かんノノ
 萬物ばんぶつ不ふ備びツツ一いつツツ乃なり氣きををままでで不ふ磁じ石せきがが鉄てつをを吸ひくく
 此この力ちから乃なりああるるとといいてておおささるる傳でん信しん機き乃なり仕し掛か
 ハハエエレレキキトトルルママググ子こツツトトとといいふふ鍛か鉄てつノノ棒ぼうととガガルルババニニツツ

クバツテリトト又銅と白鉛をい入きたる箱たまとを以もつ

エレキトルの氣力きりきをおおししくくおおををを彼是乃間かれこれ あひだふちり

こくくたる銅線どうせんのももトト通つうずずききハ道乃遠近みちのゑんじんふふああ

くく直ちよくふ先方せんぽう通つうずずききハハ此方このあたふふくく銅線乃どうせん

もトをイの字も所ところへ當あててバ先方せんぽうふふくくイの字い

をつまつ口の字くちへ當あててバ口の字くちををららくく實じつふふその働はたら自由じゆう

自在じざいふふくく恰ただと對面たいめんくく話わををききるるややりりてておおききるるささららにに此こゝ

等の事このことハ前まへふふはは信まことトト窮理學きゆうりがくとと以もつ學問がくもんを學まなぶぶハ

忽たちまちととかかるるふふいいふふくくニニハハかかるる道みち理りを知しるるななままののくくららにに針はり

道ミチや傳信機デンシンキハ切支丹キリシタンてもやうくうぎてもふうくそ外上
 ひ又鉄道テツドウハ日本ニッポンのやうふめぐり海ウミもく船フネ乃便利ベンリかよ
 き國柄クニガタでハ無益ムギだの音信オンシンハ是コレ追ツる飛脚ヒキヤクもく十分ジュウブツ
 足タりる傳信機デンシンキハ余斗ヨドく杯ハシハ事コトハミ多偏屈ヘンクツを理リてふ
 らぬ人の言葉コトバておさる第一ダイイチ西洋セイヤウでも英國イギリス杯ハシもく國クニ
 ハ日本ニッポンより少しスグシ小き位イハなり矢張ヤハ島國シマクニておさるそ是コレ
 小國コクニ中惣躰ナカソウタマ鉄道テツドウハ長サナガサを積ツクむ強人ツヨヒトと四千里シヨウリも及
 び侍サマシ行機ユクキハ何ナニも蜘蛛クモの網アミも張テるや引ヒキ架カり
 あらしもの大オホとさき船フネ乃便利ベンリよき國柄クニガタも鉄道テツドウ

傳信機ハ必用之物ノ思ハル外譬ハ東京と横濱の

間を川蒸氣船と往來せしハ稍く一日ハ兩度位乃至

して六時程を越すが鉄道が出来ると一日ハ十度ハ

往復が出来外ナント便利てハおまゝ人か又音信も是

迄ハ稍く一日一度のしころが傳信機おとハ烟草一服

吸ぬうち返事があつた實ハ便利といふも舌を巻むか

して六時ハ外を越すゆゑ高賣乃繁昌ハいふ及ぶハ大事

病氣も忽ち問あふとふと是皆鉄道傳信機の傳

達ておまゝ又山國では是迄運送の不便をいふも出来

金、産物も捨置く骨を折らぬ場所がござるるそは
 鉄道傳信機が出来運送が自由な事よ、我勝る
 骨を折り産物を積出す工夫をなすゆゑ自然産物
 も殖え民百姓も饒富なる理あり且馬の脊を以
 る運送するより鉄道の方が安賃銭を以て
 おのつかり産物乃直段も下流をなすも、
 此等も考へたり鉄道傳信機、國を富し民を饒
 富ならしむるに必用なる物で、おごり人かたし、
 機が出来て商人の儲かなくなり高賣が衰微す

ろとハ沙汰乃かきり誅たまふあき、身みづく口くちが関ふげません
 何故なげとらふ物乃相場さうぢとら物ハ時乃景氣けいきふより
 高下かうげまら物ものあき中ちゆうく人カを以もつ自由じゆうふまらるけふハ
 西かぬあとしてあがら壁かべハ豊年ふうねんハ誰たれも米の直段ちかたんハ
 追おひく下落からくまらる人ひとと老おきなつる米こめ所持しじる人ハ我われ
 勝かちふ賣うら人ひと事ことを競きやうふ是こゝに於おき米こめ相場さうぢハ益えき下くだる
 いづ外ほか凶年きゆうねんハあまあまあハり追おひく米こめが拂底はらふぢ
 と思おふ由よし急人いそひハ蔵くらハ積込つみこあま高直たか直ちかを待まちて賣うり出で
 人ひととんそき益えきあふあぢさき進すすバ何なに進すす乃土地ちハ

一、百兩ノ利を得る方が品物ヲ賣方もよく金銀

の融通もよき理ふく如何程當人の為ふなるか

ませんそをいふべきまでの商人ハ一年ハ一度ハ二度の高

賣をせし一際不濡手て粟を儲むやうなる儲をせし

めやうと云ふ懶惰者の多かりし事だが大にあらう

そんを手ぬるき大しでい間ハ合ぬゆゑあつと商賣

不働心あつたり一年ハ百度も二百度も商賣をする

かゝるやうなせうなものを品物ヲ賣方もよく又金銀

の融通もよくなる理合あり獨り商人の幸ひでい

ちかく 天下一般の幸福ふくていまはさるるませんかまはせその源をま
考へまはせまいま 鉄道傳信機まの法まをまてまざるま

舊平

段々の法理解ま誠まの感心まにまよまりまたま實ま不足ま下まるま法活ま

乃通まりま當時政府まの法政事まとまらましまものま皆ま民ま百姓ま我ま

乃安穩まの暮まるまきま金錢まがま沢山ま儲まつまるま沢山ま歡樂ま乃出ま

来るまやまうまふましまの法趣ま意まだまとまつまふましま了ま然まとまかまりま恰ま

も夢まの覺まくまやまうましまの思まひまをま外ま今ま迄まはまくまるま道理まスまあま

る事まとまいま露まをましま只ま當時まの事まハま皆ま異風まとまいま思ま

きふしうのこ思ひ政府の法政道と彼是（おのれ）も上足（あがり）
 下小對（おたがひ）も僻論を唱へ（なげ）もけり（し）今更（いま）もんと
 も恐入面目（おそろし）なき次第（ついで）ておざり

開次身（あひだり）

僕（わが）の愚論が法胸（はふちゆう）不落（ふらく）きたかき身（み）で志（し）を僕（わが）の法話（はふわ）

又（また）甲斐（かひ）變（へ）あつたよふたを（を）うぶ（ぶ）今（いま）の世（よ）の中（なか）の風（かぜ）

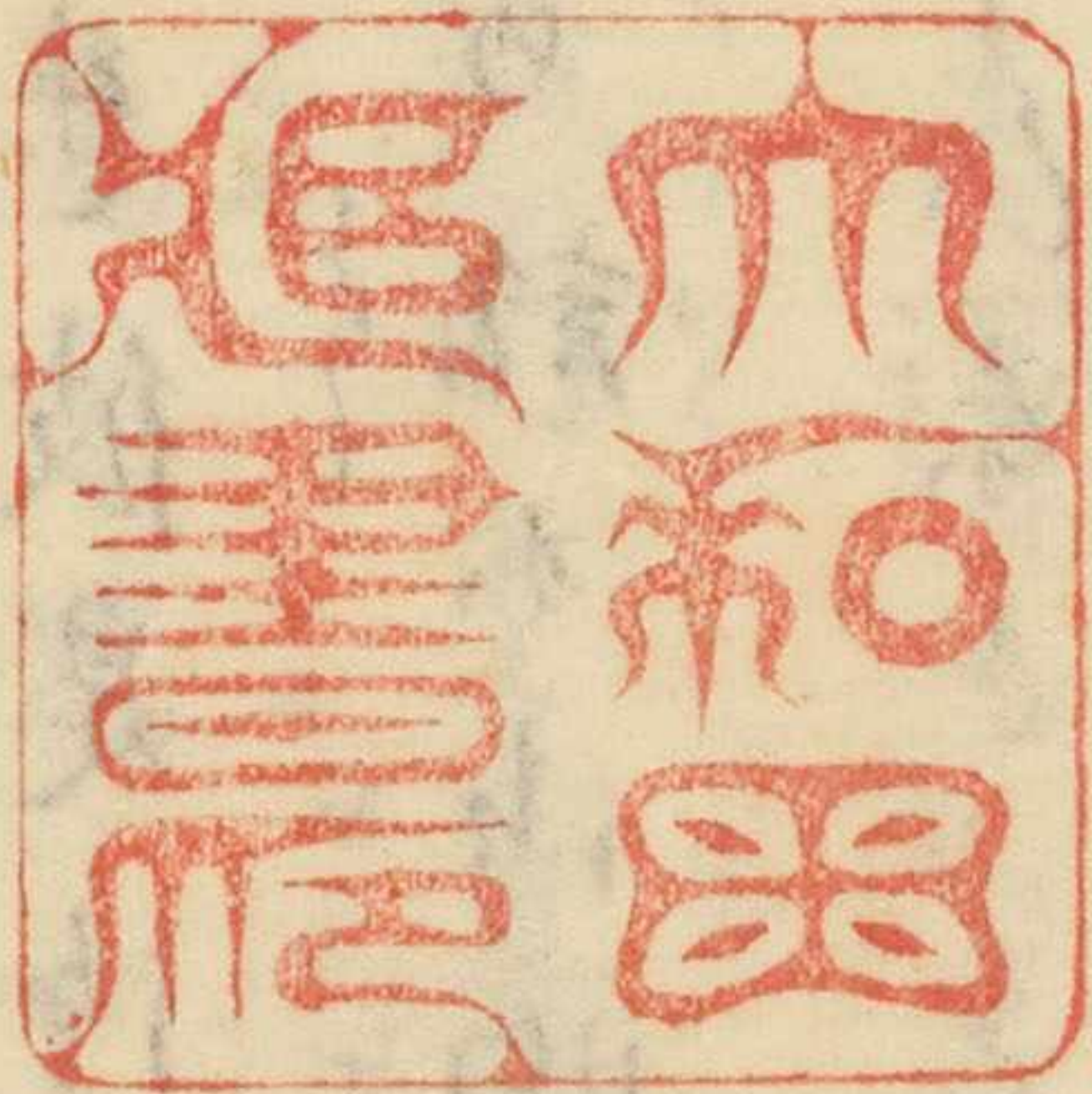
俗（ぞく）といふものい唯（ただ）多（た）人（ひと）乃（すなは）譯（やく）も（も）かたは（は）肯（けん）贊（さん）小（せう）昔（せき）一（いつ）乃（すなは）事（こと）

を悪（あく）く（く）といふ當時（たうじ）乃（すなは）流行（りうかう）を真（ま）似（ね）る人（ひと）杯（はい）が多（おほ）い乃（すなは）不足（ふそく）

下（した）の心底（しんぞう）天子（てんし）様（さま）乃（すなは）為（な）を思（おも）ふ（ふ）も（も）かた（た）新規（しんき）乃（すなは）物事（ぶつじ）

を^{かれ}ま^らる^いもの^のと思^はせ^彼是^法論^もい^ひ聞^らせ^る事^を
 て^おぎ^らる^る身^が僕^の話^が法^胸小^落入^りリ^ラリ^と以^前
 の^法論^を棄^る志^をひ^かさ^つと^所ハ^真小^日本^人乃^る象^象
 む^く貴^い法^心感^心々^々と^ます^こと^を段^々に^法信^すと^様々
 了^けど^かと^銘々^皆政^府乃^る法^趣意^を守^り勉^強之^を
 身^がバ^いか^程面^白樂^しも^出來^いか^程貴^き身^分の^事
 ち^とつ^せら^るま^じと^あら^うナ^ニ一^喜平^君と^く考^へら^る事^ハ
 涙^乃流^せら^るも^と有^難法^時節^でハ^おぎ^らる^人ハ

開化問答卷下終



Faint, illegible handwritten text in seal script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

明治七年三月新刻

日本橋通三丁目

丸屋善七

須田町

富城屋藤兵衛

同

和泉屋
甚右衛門

東京書肆

